

第 11 回災害支援訓練

実施報告書

広域一般廃棄物事業協同組合

第 11 回災害支援訓練実施報告書

広域一般廃棄物事業協同組合

日 時：平成 28 年 3 月 12 日（土）9：00～12：10

場 所：①集合場所…小田原市諏訪原（トレープラスチック減容施設の隣り）

②派遣場所…広域避難所 2 次施設となる橘中学校、酒匂中学校、白鷗中学校、旧片浦中学校、城南中学校、城山中学校、国府津中学校、鴨宮中学校、白山中学校、城北中学校、泉中学校、千代中学校の 12 箇所

参加者：小田原市 4 名、広域一般廃棄物事業協同組合 35 名

趣 旨：災害時における一般廃棄物災害収集に関する協定を締結している中で、災害が発生した際にスムーズな対応ができるかどうかを確認し、かつ、災害応急対策に対する相互理解を深める。

想 定：平成 28 年 3 月 11 日（金）15 時に発生した地震（震度 7）の影響により、小田原市が被災し、市内の避難所設置による仮設トイレの汲取りと臨時ステーションのごみ収集、震災ごみ増加・道路事情悪化により家庭ごみの収集・運搬に支障をきたしているという想定のもと、災害応急対策を行う。

概 要：緊急連絡網による連絡訓練、応援要請から参集訓練、避難所への派遣訓練までを行う。

内 容：小田原市地域防災計画によれば神奈川県西部地震の被害想定は、避難者及び水道断水等により避難所を利用する者の合計は約 13 万人とされる。また、避難者数の増加により広域避難所だけでは収容しきれない場合は、広域避難所 2 次施設として指定されている市立中学校が避難所として開設される。今回の訓練では、避難者の増加により広域避難所 2 次施設が開設されたという想定で、実際に作業車両で現地を確認し、適正に災害収集を行うことができるかを確認する。

また、小田原市の備蓄する組立式仮設トイレの構造を学習するため組み立て訓練を行う。

主な使用機材：

- ①バキューム車 11 台
- ②仮設トイレ運搬車 2 台
- ③塵芥トラック 1 台
- ④仮設テント（3m×3m）1 張
- ⑤音響設備（ポータブルワイヤレスマイク）1 機
- ⑥白板 1 枚
- ⑦非常食セット 30 個
- ⑧地図（道路地図、明細地図）
- ⑨組立式仮設トイレ 2 基
- ⑩机 1 枚
- ⑪椅子 3 脚

備 考：

タイムテーブル

3月11日（金）

- 15:00 小田原市に震度7の地震発生。
- 15:20 小田原市環境部からの応援要請に基づき、組合員へ応援要請。
- 16:00 組合の支援体制を小田原市に連絡。

3月12日（土）

- 9:00 全派遣班、集合場所に到着（小田原市諏訪原 トレープラスチック減容施設横）
司会進行 高橋統括
開会挨拶
参加者紹介
訓練行程説明
小田原市から応援要請の内容説明
 - ・市内12箇所の広域避難所2次施設の設置とそれに伴う仮設トイレ汲取り、ごみ収集及び仮設トイレ設置班編成（2班体制とする。第1班を稲葉班長、第2班を齋藤班長が担当）
責任者会議（高橋統括、稲葉班長、齋藤班長、小田原衛生担当者）
班別ミーティング
 - ・市内状況説明
 - ・運行計画作成、作業指示
- 9:15 仮設トイレ組み立て訓練（ベンクイックS型、ベンクイックJW3型）
- 9:40 作業チームごとに広域避難所へ移動
- ～11:30 仮設トイレ適正設置場所の確認（橘、白山、城北）
仮設トイレ設置訓練（白山、城北）
進入路の確認（12箇所）
- 11:50 訓練終了式
班別に派遣訓練結果を報告
関係機関挨拶 小田原市環境部 吉川副部長
講評 鈴木理事長
- 12:30 訓練場所清掃、後片付け
解散

訓練状況

開 会



環境部から指令を受ける



第1班ミーティング



訓練状況

第2班ミーティング



災害支援車両

バキューム車 11台
仮設トイレ運搬車 2台
塵芥トラック 1台



仮設トイレの組み立て訓練



訓練状況

広域避難所に向けて
順次出動



進入路の確認
(橋中学校)



仮設トイレ設置
(城北中学校)



訓練状況

派遣班から報告
(B班)



訓練終了式

環境部副部長より挨拶をいただいた



派遣訓練結果を報告し、理事長から講評



避難所トイレ設置訓練 災害に備え対応を強化

小田原



持ち込んだ仮設トイレを設置する参加者ら

県西部や湘南、県央職員ら約 40 人が参加した。設置場所の状況を確認。「バキューム車が作業可能」「高齢者や子供、女性が夜間でも安心して行きやすい」などを前提にしており、城北や白山中では、実際に仮設トイレを運び込んだ。

訓練では、各中学の位置や侵入経路を把握してもらった。被災時には土地勘の薄い市外の事業者にも対応を要請することもあった。道に迷うことを防ぐため、現場へ向かう準備が完了した。このほか、市が防災倉庫で備蓄している組立式仮設トイレの設置も体験。組み立て手順を確認するに加え、避難住民が少しでも快適に使えるよう、設置場所や用意しておくべき用品について、アイチアが話された。市環境事業センターと感謝した。

鈴木理事長は避難所「助けになってほしい、トイレの役割」の大きさを示し「マニュアルの机上の準備では、災害でパニックになってくる時に、は役に立たない」と、継続して訓練に取り組む意義を説明。参加者に対しては訓練の経験を生かし、地域住民の助けになってほしい、と呼びかけた。同組合は、県西以外にも伊勢原市や大磯町などの 14 事業社で構成。小田原市を含む 2 市 4 町との間で、「災害時における一般廃棄物収集に関する協定書」を結んでいる。2011 年の東日本大震災以降、ごみ処理し尿処理に特化した災害時対応訓練を継続して実施。毎回テーマを設けており、11 回目の今回は初めて、広域避難所 2 次施設での仮設トイレ設置を盛り込んだ。

所が開設された。地域の増加により、公立中学校に広域 2 次施設を設ける必要があり、仮設トイレの設置や汲み取り対応に当たった。組合員らは 4 つのグループに分かれ、向かう避難所など、ユーティリティ、事業所が持ち寄った仮設トイレを積んだトラック 2 台が、実際に各中学校（12 校）へ向かっていた。到着先では、アイチアが話された。市環境事業センターと感謝した。

鈴木理事長は避難所「助けになってほしい、トイレの役割」の大きさを示し「マニュアルの机上の準備では、災害でパニックになってくる時に、は役に立たない」と、継続して訓練に取り組む意義を説明。参加者に対しては訓練の経験を生かし、地域住民の助けになってほしい、と呼びかけた。同組合は、県西以外にも伊勢原市や大磯町などの 14 事業社で構成。小田原市を含む 2 市 4 町との間で、「災害時における一般廃棄物収集に関する協定書」を結んでいる。2011 年の東日本大震災以降、ごみ処理し尿処理に特化した災害時対応訓練を継続して実施。毎回テーマを設けており、11 回目の今回は初めて、広域避難所 2 次施設での仮設トイレ設置を盛り込んだ。

鈴木理事長は避難所「助けになってほしい、トイレの役割」の大きさを示し「マニュアルの机上の準備では、災害でパニックになってくる時に、は役に立たない」と、継続して訓練に取り組む意義を説明。参加者に対しては訓練の経験を生かし、地域住民の助けになってほしい、と呼びかけた。同組合は、県西以外にも伊勢原市や大磯町などの 14 事業社で構成。小田原市を含む 2 市 4 町との間で、「災害時における一般廃棄物収集に関する協定書」を結んでいる。2011 年の東日本大震災以降、ごみ処理し尿処理に特化した災害時対応訓練を継続して実施。毎回テーマを設けており、11 回目の今回は初めて、広域避難所 2 次施設での仮設トイレ設置を盛り込んだ。

避難所のトイレ設置に備え

災害支援訓練を実施

県西部を中心に廃棄物処理委託業者が組織する「広域一般廃棄物事業協同組合」（鈴木茂理事長）と小田原市は3月12日、市環境事業センターそばで災害支援訓練を実施した。

同組合では、これまでに訓練を通じて、市内広域避難所25カ所の進入路と仮設トイレの適正設置場所を調査し、市へ提案してきた。



▲仮設トイレを運びこんで調査した。



▲備蓄用仮設トイレの組み立て訓練も実施した。

11回目となる今回は、広域避難所の2次施設に指定されている中学校12カ所に赴き、訓練を実施した。進入路の確認に加え、3校（橘中、白山中、城北中）では仮設トイレの適切な設置場所を調査した。鈴木理事長は、「災害時、トイレの問題は避けて通れない。自治体や近隣の事業者と連携し、衛生面に配慮した運用ができるよう備えたい」と話した。